

适用于科目代码203的考生
14套公共日语考研真题及详解
公共日语考研辅导名师倾力打造



全国硕士研究生入学统一考试 日语必备题集

主编 李光泽

2002—2015年公共日语考研真题及详解

254个重点词汇、241个核心惯用型归纳

全面剖析考试重点、难点

作者从事公共日语考研辅导工作十余年



大连理工大学出版社

全国硕士研究生入学统一考试

日语必备题集

主编 李光泽



大连理工大学出版社

图书在版编目(CIP)数据

全国硕士研究生入学统一考试日语必备题集 / 李光
泽主编. — 大连 : 大连理工大学出版社, 2016.10
ISBN 978-7-5685-0521-5

I. ①全… II. ①李… III. ①日语—研究生—入学考
试—习题集 IV. ①H369.6

中国版本图书馆 CIP 数据核字(2016)第 186696 号

大连理工大学出版社出版

地址:大连市软件园路 80 号 邮政编码:116023

发行:0411-84708842 邮购:0411-84708943 传真:0411-84701466

E-mail:dutp@dutp.cn URL:<http://www.dutp.cn>

大连永盛印业有限公司印刷

大连理工大学出版社发行

幅面尺寸:185mm×260mm 印张:23 字数:589 千字
印数:1~3000

2016 年 10 月第 1 版

2016 年 10 月第 1 次印刷

责任编辑:许 姗

责任校对:苏阳 苏静

封面设计:董振巍

ISBN 978-7-5685-0521-5

定 价:45.00 元

前言

对于目前国内很多准备参加研究生入学统一考试公共日语考试的考生来说，比较苦恼的恐怕就是找不到合适的辅导书和同步训练资料了。笔者就此进行了实地考察，发现目前市面上专门针对这一考试进行辅导的学习材料，实在是少之又少。另外，笔者通过网络调查，发现迫切需要考研日语真题解析的考生非常多。对于考生而言，不但要做大量的习题，阅读大量的文章，还要掌握恰当的应试技巧，这样才能真正提高自己的日语综合能力和应试能力。

笔者从十多年前，就开始进行研究生入学统一考试公共日语考试的辅导，具有丰富的教学经验和应试指导能力。自创很多行之有效的应试方法，例如对号入座法、逆向思维法等。培养了近千名研究生和博士。十年磨一剑，经过多年的教学辅导，笔者积累了丰富的教学资料，教学经验也逐渐趋于成熟。笔者特别编写本书，希望能为广大考生和日语学习者提供帮助！

本书对2002年到2015年的全国硕士研究生入学统一考试公共日语（科目代码：203）考试试题进行了整体回顾和梳理分析。在结构上主要包括以下内容：

1. 2002年到2015年的14套全国硕士研究生入学统一考试公共日语考试真题；
2. 14套真题的参考答案及详细解析(不含作文)；
3. 附录包含日语考研大纲中的254个副词、接续词以及241个惯用型的归纳总结。

其中真题答案解析和附录部分是本书的核心部分。

本书着重分析考试内容和提示考试重点，其目的是帮助考生对研究生入学统一考试公共日语考试所应具备的知识储备和综合素养有一个系统的了解，同时可以对各方面知识的构成和应掌握的要点成竹在胸。为此，笔者结合考试内容，尽量全面地介绍有关方面的系统知识，并提示相关的学习要点；同时结合真题答案解析，扩展与该考题有关的知识点。另外，附录部分对大纲内的重要语法点进行了总结归纳，每个语法点主要包括接续、意义、例句。考生既可以把这部分作为语法点复习，也可以背诵例句，将其作为写作部分的素材。

在编写本书的过程中，笔者参考了国内外有关学者的著述和研究成果，篇幅所限，不能一一注明，谨在此表示衷心的感谢和歉意。如有疏漏和不当之处，敬请国内外同仁和读者予以批评指正。

李光泽

2016年10月

目录

2002—2015年真题

2002年真题	2
2003年真题	12
2004年真题	23
2005年真题	33
2006年真题	43
2007年真题	53
2008年真题	64
2009年真题	74
2010年真题	84
2011年真题	94
2012年真题	105
2013年真题	115
2014年真题	125
2015年真题	135

2002—2015年真题答案解析

2002年真题答案解析	148
2003年真题答案解析	156
2004年真题答案解析	165
2005年真题答案解析	173
2006年真题答案解析	181
2007年真题答案解析	190
2008年真题答案解析	199
2009年真题答案解析	206
2010年真题答案解析	214
2011年真题答案解析	221
2012年真题答案解析	229
2013年真题答案解析	237
2014年真题答案解析	245
2015年真题答案解析	252

真题答案速查	261
--------------	-----

附 录

副 词	270
接续词	294
惯用句	299
索 引	354

参考文献	361
------------	-----

2002—2015 年真题



2002 年真题



I 聴解 (20 点) (略)



II 基礎知識 (20 点)

次の文章を読んで、21 ~ 40 の問題に答えなさい。答えは選択肢 A・B・C・D からもっとも適切なものを一つ選びなさい。

ここ数年、「若年層における日本語の乱れ」を指摘する声が相次いでいます。このような議論は「今の若い者は…」というものの言いと同じで、(21) 大昔からあったことなのでしょう。若者の(39) 流行り言葉 (22) 大人が(34) 眉をしかめるというのは、基本的に今(23) 昔(23) 変わらないのです。

けれど今は確かに過去のそれらとは違う、大きな変化が日本語に起き(35) ています。よく言われることですが、まずテレビを初めとするメディアの影響はかつてない(24) 大きくなり、都市と地方で情報の差はなくなりました。

つまりテレビでタレントが使ったおもしろい言葉は、翌日(36) から日本全国の若者が同時に使うことができるのです。1 人の人気タレントが発した言葉(25)、パッと日本語がそれまでと変わる…その速さは、実に今日的な現象と言えます。

しかしそれは(26) いけないことなのだろうか、という疑問があります。

なぜなら言葉というのは本来、善悪、正邪で測るものではなく、好きか嫌いかでしか判断できないからです。若者たちが使う日本語を「嫌いな」人たちが、新しい日本語について意見を述べているにすぎないのです。

例えば「見れる」「食べれる」などの「ら抜き言葉」も、一時期大きな話題となりました。もちろんこれは正しくない日本語である、という非難を(27) ことは皆さんご存知の通りです。

けれど現実には日常で意味が通じている(37) のに、正しくない日本語であると否定(28) とするのはどうなのだろうか、と思うのです。

そもそもこの「ら抜き言葉」は日本語史的にいうと、「可能型」(見れる、食べれる)と「受け身型」(見られる、食べられる)に意味が区別しやすい(29) 一段活用動詞が変化したものだ、と(38) 考えられるのです。(30) これは、日本語がより進化した形だということもできるでしょう。

このように言葉は常に変わつ(31)ものであり、それは同時に言語社会を映す(40)鏡でもある(32)です。どの言語社会の言葉も時代と共に変化していますが、日本語は特にそのような性質を持った言語であるとも言えるのです。

事実、現在「ら抜き言葉」がどうなっているのかといえ、今やもう日常語として定着している(33)でしょう。新聞や、NHK でニュースを読むアナウンサーはまだ使っていませんが、民放テレビのアナウンサーが使う場面はしばしば見られます。

(21) ~ (33) に入るもっとも適切なものはどれか。

21. A. あたかも B. おそらく C. まったく D. かならずしも
22. A. に B. と C. で D. を
23. A. か B. や C. は D. も
24. A. まで B. だけ C. ほど D. ばかり
25. A. からして B. からには C. によって D. にとって
26. A. いかにも B. まさか C. たぶん D. はたして
27. A. 浴びた B. 得た C. 覆った D. 襲った
28. A. する B. しよう C. せよ D. した
29. A. よう B. ようと C. ようで D. ように
30. A. それなら B. それだけ C. それとも D. それなり
31. A. てくる B. ていく C. てしまう D. ておく
32. A. こと B. べき C. わけ D. ところ
33. A. といったらいい B. といっていい
C. というわけではない D. とは限らない
34. 文中の「眉をしかめる」に当たる解釈はどれか。
A. 不快を感じる B. 心配する
C. 気にかかる D. 疑問に思う
35. 文中の「ています」と同じ使い方のものはどれか。
A. 赤ちゃんがまるまる太っています。
B. チベットには3回行っています。
C. 学生たちはびっくりして先生を見つめています。
D. 「ら抜き言葉」はもう日常語として定着しています。
36. 文中の「から」と違った使い方のものはどれか。
A. 冬休みは1月15日から始まります。
B. 車は都心を過ぎたところからスピードを上げました。
C. この魚は、蛇そっくりなところから海蛇という名前を持つ。
D. 好きなものから順に並べてください。

37. 文中の「のに」と同じ使い方のものはどれか。
- A. 重要な会議なのに、欠席者が多い。
 - B. この論文を書き終わるのに、あと一週間ぐらいかかる。
 - C. 暖房は冬を快適に過ごすのに不可欠だ。
 - D. 町の歴史を調べるのに図書館に行く。
38. 文中の「考えられる」の「られる」と同じ使い方のものはどれか。
- A. 高原ではもう秋の気配が感じられる。
 - B. 今度の事件について、先生はどう考えられますか。
 - C. あの人の話を聞いて教えられるところが多かった。
 - D. 彼からは回答らしい回答が得られなかった。

(39) (40) の漢字の読み仮名はどれか。

39. 流行り

- A. はりき B. はかど C. はや D. はま

40. 鏡

- A. かかみ B. かがみ C. きよ D. きょう



Ⅲ 読解 (50 点)

A. 次の文章の〔一〕〔二〕〔三〕〔四〕を読んで、41～60の問いに答えなさい。答えは選択肢A・B・C・Dからもっとも適切なものを一つ選びなさい。(2点×20=40点)

〔一〕

関西への出張でよく新幹線を利用する。私は新幹線の中では、いつも読書をしたり、移り変わる外の風景を楽しんだり、あるいは夢うつつ(似睡非睡)でくつろいでいる。目的地に着くまでの数時間はだれにも拘束されない貴重な時間と空間なのである。

先日も(41) そんな車中、「東京都〇〇区〇〇さん、最寄の電話口までおいでください」といったあの呼び出し放送が流れ、ハッと(42) 現実の世界へ引き戻されてしまった。大阪につくまでに、ほぼ十回ほど同じような放送があった。

自分の世界でゆったりとしている時間を他人の都合で中断されるのは何とも腹立たしい。呼び出された人も乗客への気遣いに心を痛めているのではないか。

親の危篤だとか緊急の時、連絡いただけるのは、たいへんありがたい。しかし、こうした一人に対するサービスを一方では大勢の乗客が迷惑だと思っているとしたら、それは本当のサービスと言えるだろうか。

携帯電話については「デッキ(车厢的连接部)でお願いします」というアナウンスが徹底していてかなり改善されたと思う。

思いつきだが、電話の呼び出しについて提案したい。「新幹線の中での電話の取次ぎ（传电话）は、指定席の方々に限り車掌が直接伺います。ただし有料です」としてはいかがいか。

社会の中には権利と義務がある。自分にとってプラスの場合は、それ相応のコストを払うのが世の中のルールではなかろうか。義務とは指定席料と呼び出し料を払うことである。そのためには何号車の何番に乗っているということをあらかじめ家族とか会社に伝えておく必要がある。

及びもつかぬ緊急事態発生時には、（ 43 ） 車内放送による呼び出しが許されてもよいと思うが。

われわれは、自分の思い通りになればサービスが良いと思いがちだが、その要求が行過ぎると、逆に多くの人に迷惑とコストを強いていることになる。心すべきことではないか。

41. 文中の「そんな」は何を指すか。
 - A. だれにも拘束されない
 - B. 夢うつつでくつろぐ
 - C. 風景を楽しむ
 - D. 読書する
42. 文中の「現実の世界」に対応する言葉はどれか。
 - A. ルールの世界
 - B. 権利と義務のある世界
 - C. 自分の世界
 - D. サービスの良い世界
43. 文中に「車内放送による呼び出しが許されてもよいと思うが」とあるが、もし文が続くなら、どの文が後にくるか。
 - A. 有料にすべきだ。
 - B. 何号車の何番に乗っている誰なのかを言うべきだ。
 - C. これがサービスと思われては困る。
 - D. 緊急事態発生の時以外はやめてほしい。
44. 筆者の考えに合わないものはどれか。
 - A. 乗客全員に取次ぎをすべきだ。
 - B. 取次ぎのサービスを有料にすべきだ。
 - C. 取次ぎをする時は、車掌が席まで行くべきだ。
 - D. アナウンスで電話の呼び出しをするのは、緊急の時だけにすべきだ。
45. 筆者が最も言いたいことは何か。
 - A. 新幹線の車内のサービスはすべて有料化すべきである。
 - B. 携帯電話は座席で使うとほかの人に迷惑なので、デッキで使うべきだ。
 - C. 自分にとっては便利でもほかの大勢の人にとって迷惑なことは、良いサービスとは言えない。
 - D. 車掌の義務として、だれにも拘束されない時間と空間を乗客にサービスしなければならない。

〔二〕

世間に疎いという言葉が、常識ということの一面をよく説明している。常識とは、個人の判断ではあっても、（46）それが一般的であるとか、社会に共通するとかいう性格を持たなければならないものである。別の言葉でいえば、常識とは、社会に通用する判断なのである。（第1段落）

社会に通用するとは、現状をすべて肯定するという意味ではない。現状とはかけ離れた考え方であっても、それがどこかで現状につながり、明日に実現の可能性を約束するものでなければなるまい。それならば社会に通用する考え方だということができよう。常識とは、そうした考え方なのである。（第2段落）

社会に通用するというからには、世間を知るということが、当然に必要であろう。自分の考え方なり、判断なりを、（47）世間の中に置いてみて、それが通用するものかどうか、反省することが、何よりも必要だということになる。ということは、必ずしも世間なみに従えということではない。（第3段落）

こう考えてくると、常識を養うということも、そう簡単なものではないということに気がつく。しかし、ほんとうは、そんなに難しいことではないのだ。純真な心を持った人たちのことを考えてみると、すぐわかることだろう。いわゆる学識もなければ、社会的にも目立つことのない人で、よく常識をわきまえている人があるものだ。このような人については、いろいろの美点をあげることができるが、ここではただ一つ大事な点を記しておくことにする。（第4段落）

それは、自分の知らないことを、人に尋ねるということである。知らないことを、知らないこととして、（48）これを人に聞くということは、簡単なことでありながら、難しいことなのだ。だが、それのできるということが、常識なのである。（第5段落）

46. 文中の「それ」は何を指すか。

- A. 言葉 B. 世間 C. 個人の性格 D. 個人の判断

47. 文中に「世間の中に置いてみて」とあるが、それはどういうことか。

- A. 世間一般の考え方に照らしてみること B. 関係者に判断してもらうこと
C. 有識者に尋ねてみること D. 世間なみに従うこと

48. 文中の「これ」は何を指すか。

- A. 常識をわきまえていること B. 自分の知らないこと
C. 人に尋ねること D. いろいろな美点をあげること

49. 次の段落は文中のどの段落とどの段落の間に入るか。

「常識は、世間なみとは逆の場合が多い。まして日本のように、常識、常識といわれながら、常識を軽蔑したり、常識が社会に広く行われていない所では、いっそう、常識が世間なみの考え方や判断と一致しない場合が多いだろう。」

- A. 第1段落と第2段落の間 B. 第2段落と第3段落の間
C. 第3段落と第4段落の間 D. 第4段落と第5段落の間

50. この文章にふさわしいタイトルはどれか。

- | | |
|----------|-----------|
| A. 常識と判断 | B. 常識と世間 |
| C. 常識を養う | D. 常識とは何か |

[三]

つまらないミスを重ねる同僚を、つついけなし（貶低）てしまった。そのせいだろう、すっかり彼の私に対する感情を害してしまったみたいだ。（51）なんとか関係を改善したいが…ということがよくある。こんな場合、米国の心理学者アロンソンがやった、少し複雑な実験結果が参考になる。

面接の仕方の実習をするということで学生AがBを面接する。Bは実はこの実験の共同研究者である。

面接が始まると、実験者は途中で7回ほどBを呼び出し、面接者であるAに対する印象を別室でそっと聞く。面接の実習をうまくやっているかどうかを確かめるためだと、Aには言っている。

（52）マイクのスイッチを切り忘れたのか、面接者Aのいる部屋にBの話している内容が聞こえてしまう。

実は、このミスはわざとやった仕掛け。実験の本当のねらいは偶然Bの「本音」を聞いてしまったAの反応である。

BはAの面接の仕方や口の利き方について、

- ① 始終、面接者Aを褒める
 - ② 初めは褒めているが、途中からけなすようになる
 - ③ 初めから終わりまでけなしっぱなし
 - ④ 初めはけなししているが、途中から褒めるようになる
- という4通りの対応を演じる。

さて、面接がすべて終わった後、「あなたが面接をした人のことをどう思うか」とAに尋ねる。

面接者たちの回答は④、①、③、②の順に好意的だった。④が最も相手に好感を持ちやすく、②が最低だった。

つまり、相手を褒めてばかりいる人よりも、最初はけなししていたのに次第に褒めるようになった人のほうが、「自分のことをよく理解してくれた」と感じてより好感を持ちやすいというわけだ。

アロンソンの実験は、仲のこじれかかった同僚とも、まだ十分関係を修復できる余地があることを示している。

考えてみれば、ミスを指摘するのは当たり前。それに目をつぶることは、（53）本人のためにもならない。肝心なことは、ほかに認めるべき点を認め、褒めてやれば良いのである。

しかし、他人の長所を見つけ、それを褒めるというのは、存外難しい。意識して（54）に目を向け、機会を見つけては、それを口にすることが大事だ。

51. 文中に「なんとか関係を改善したいが…ということがよくある」とあるが、「改善したいが」の後に省略されているものはどれか。
- A. どうにもならないだろう B. どうしたことだろう
C. どうしたらいいだろう D. どうしてだろう
52. 文中の（52）に入るものはどれか。
- A. このため B. ところが
C. とはいえ D. その結果
53. 文中の「本人」とは誰か。
- A. 同僚に褒められた人 B. 実験を受けた人
C. 同僚を褒めた人 D. ミスをした人
54. 文中の（54）に入るものはどれか。
- A. 他人のミス B. 他人の短所 C. 他人の長所 D. 他人の評判
55. アロンソンはどんな実験をしたか。
- A. 面接の仕方を実習した
B. 他人への評価の仕方を調べた
C. 好感の持てる面接者の条件を調べた
D. 他人の評価の仕方に対する反応を調べた

[四]

その日は、すばらしい秋日よりだった。ぼくは何年ぶりかで、小さな町の駅に降り立った。戦災もほとんど受けなかった様子でほっとする思いだった。幼いころを過ごした町なみに近くなると、（56）ひとりでに胸が鳴った。（57）道端の石ころ一つにも小学生のぼくが見えるような気がした。

すれ違う人にも、どこか見覚えのあるような顔があった。相手にはもちろん僕が分かるはずはない。腕白仲間だった友達の家の前では、そっとのぞきこんでみたりした。道がひどく狭くなったような気がしたが、ぼくのほうが大きくなったからだろう。

やがて、懐かしい峠へかかって来た。このあたりは、ほとんど昔と同じだった。古びた石段の凹み具合まで同じだった。暗い峠をぬけると、景色がひらけて、汗ばんだ体に、心地よい風が吹きぬけていった。昔もやはりそうだった。小山の尖った頭が見えてきた。

（58）ぼくはひと安心した。まわりの山が、丸坊主にされているのに、ぼくの小山だけは、紅葉しかけた木が、こんもりとしていたのだ。だれかが、ぼくのために、大切にしておいてくれたような気がして、（59）。

頑丈な革靴をはいていたので、峠から行ったほうがよかったのだが、わざわざ川まで行って、裸足になり、冷たい水の中を歩いて行った。川の様子は、なんとなく違って思うように思われた。ぼくが大きくなったからか、それとも、水の流れて、いくらか変わったのか、たぶん、両方だろう。

ぼくはうす暗い川の中で立ちどまった。段々岩のほうを透してみたが、別にだれもいなかった。ぼくのもちの木は、番兵のように、二本ともしっかりと立っていた。しかも、もちの木の肌には、ぼくが皮を剥がした傷跡が、はっきりと残っていた、「やあ」と思わず声を掛けてしまった。こうして、外から見たところは、この小山は全然変わっていないようだ。

ところが、靴をはいて、三角平地にもぐりこんでいくと、(60) まるつきり 様子が違っていたのだ。うす暗かった平地は、明るい日光をいっぱい受けていた。南側にあった杉林が、一本残らず切りとられていたからだ。ぼくは、見なれない場所に来たような、騙されたような気がした。

56. 文中に「ひとりでに胸が鳴った」とあるが、それはなぜか。
- A. この町には、懐かしい思い出がいっぱいだから。
 B. この町には仲間がたくさんいるから。
 C. この町は戦災を受けなかったから。
 D. この町は小さくて心が落ち着くから。
57. 文中に「道端の石ころ一つにも小学生のぼくが見えるような気がした」とあるが、ここでは筆者が何が言いたいか。
- A. この町は少しも変わっていない B. 石に自分の名前が書いてあった。
 C. 小学生の時が一番思い出が多い。 D. 故郷はもう何年ぶりだ。
58. 文中に「ぼくはひと安心した」とあるが、それはなぜか。
- A. すれ違った人にも、どこか見覚えのあるような顔があったから。
 B. ぼくの小山だけは昔のままだったから。
 C. 腕白仲間だった友達の家の前を通ったから。
 D. 小山の尖った頭が見えてきたから。
59. 文中の (59) に入るものはどれか。
- A. 楽しかった B. 喜ばしかった C. 嬉しかった D. 羨ましかった
60. 文中に「まるつきり様子が違っていたのだ」とあるが、その最大の原因は何か。
- A. うす暗かった平地は、明るい日光をいっぱい受けていたから。
 B. 南側にあった杉林が、一本残らず切りとられていたから。
 C. ぼくが皮を剥がした傷跡が、はっきりと残っていたから。
 D. 見なれない場所に来たような、騙されたような気がしたから。

B. 次の文章の _____ の部分を中国語に訳しなさい。(10 点)

(61) 日本の労働者が死ぬほどの働き過ぎに陥ってしまう一因として、同僚や上司、取引先などに配慮をしすぎることが挙げられる。「今日自分が休んだら、同僚の〇〇さんに迷惑をかけてしまう」「この仕事ができなかったら、お世話になった上司の〇〇さんに申し訳ない」「この契約が成立しなかったら、取引先の〇〇さんに迷惑がかかる」などと考えてしまい、体調が悪いのに無理を重ねてしまうのである。

(62) このような心情、休むと自分への社内評価が落ちるという功利的なものとも、自分の仕事を完遂したいという自己信念から来るものとも異なり、他者との人間関係を配慮するヒューマンな気持ち(人情味)から生ずるものである。この他者を慮る心情は、それ自体、社会生活をするうえで大切なことがらであり、このチームワーク精神は日本経済の発展を支えてきた源でもあった。

だが、他者への配慮は、往々にして、労働者が休息を取るべきときにも仕事にかりたてる動機づけとなってしまう。(63) 過労死でなくなった事例の調査をすると、この日無理をせずに休んでいれば助かったかもしれない、と悔やまれるケースがたくさんある。だから、わたしは「過労死をしない方法は」と聞かれたときには、「義理を欠くこと」を勧めることにしている。心を鬼にしてでも「義理を欠く」気持ちがないと過労死を防げないのが日本の職場の実態である。

こう言うと、そのような個人の気持ちの持ち方に問題を還元するのでは、職場の労務管理システムの矛盾を放置することにつながるのと批判的意見を受けることがある。このような意見に対しては、次の2点を持って回答としている。

一つは、人間の命と健康は、義理を守ることよりもはるかに尊い価値を持っていることを、私は強調しているのである。実は、この価値観のレベルで、日本には社会的な共通認識が必ずしも形成されていない。風邪引きをおしてまでもみんなのために仕事をすることが高く評価される風潮が、企業内だけでなく、社会全体に根強く残っている。

(64) 言葉としては「命と健康ほど尊いものはない」と誰もが言うが、実際の場面では、健康を第一に行動すると「自分勝手」との批判を受けてしまうことが多い。「義理を欠くこと」は、こうした社会意識を変えていく重要な実践である。

今一つは、「義理を欠く」と言う行動を通じて、職場の中の矛盾を顕在化させ、職場改革への契機とすることができる。一人が大事な時に欠勤したことによって発生した職場の混乱は、義理を欠かれた側からの、一時的反感を呼ぶかもしれない。(65) だが、欠勤の真相を明らかにし、休息することの大切さ・緊急性を説明することによって、いかに人員と時間の余裕がない環境で仕事をしているのかを浮き彫りにすることができる。このことを通じて、もっとゆとりのある職場、言わば「義理を欠くことができる職場」をつくっていくステップにできるはずである。